様式第２号（第３条関係）

審　議　会　会　議　録

<table>
<tr><td>会 議 名 称</td><td colspan="3">令和６年度　第１回伊達市社会教育委員会議</td></tr>
<tr><td>議　　題</td><td colspan="3">◎令和６年度教育行政執行方針について
◎令和５年度社会教育事業実績報告について
◎令和６年度社会教育事業計画について</td></tr>
<tr><td>開 催 日 時</td><td colspan="3">令和６年６月 19 日（水）18 時 30 分から 19 時 40 分まで</td></tr>
<tr><td>場　　所</td><td colspan="3">伊達市役所第２庁舎　２階　会議室１</td></tr>
<tr><td rowspan="2">出　席　者</td><td colspan="3">社会教育委員９名、教育委員会職員９名：出席者計 18 名
※欠席委員３名</td></tr>
<tr><td>所管部課名</td><td colspan="2">教育部生涯学習課</td></tr>
<tr><td rowspan="2">公開非公開の別</td><td>■ 公　開</td><td>傍聴者の人数</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>□ 非公開</td><td>非公開の理由</td><td>―</td></tr>
</table>

【会議概要】

１．開　会（事務局：生涯学習課長）

２．開会あいさつ（伊達市教育委員会教育長）

【以降、議長による議事進行】

３．議事

（１）報告第１号　令和６年度教育行政執行方針について

（２）報告第２号　令和５年度社会教育事業実績報告について

（３）報告第３号　令和６年度社会教育事業計画について

資料に基づき事務局から説明

（報告第３号にて新図書館についても説明）

【質疑】

□委員

令和５年度社会教育事業実績報告と令和６年度社会教育事業計画の「放課後児童クラブ」について、有珠小の表記があるが、閉校となっているので削除していただきたい。

◆事務局

承知しました、修正します。

□委員
「新図書館」について、現図書館を室内遊戯施設に改修するということだが、なぜここにするのか。
◆事務局
現図書館周辺に新たに屋外遊具が設置された、この辺一帯を子どもが遊べるエリアと考えている。室内遊戯施設は室蘭の生涯学習センターきらんをイメージしていて、小学校低学年からを対象とし、木で触れ合える遊び場、ボルダリングや滑り台を想定している。これから室内遊戯場に関するワークショップも行われ、構想が固まっていく。
◆事務局
資料の平面図は基本設計の中間段階のもの、これで決定ではない。
■議長
基本設計ということだが、まだ手を加えることができるか。
◆事務局
中間段階ではあるが、間もなく最終案が出るため大きな変更はできない。
□委員
新図書館側に玄関が無いように見えるが。
◆事務局
新図書館と室内遊戯施設をエントランスで繋げ、エントランスに共通の玄関を１箇所設ける形を予定している。
□委員
今の図書館はスリッパに履き替えるが、新図書館は土足で入館できる形で考えているのか。
◆事務局
土足での入館を考えている。
■議長
周辺にスポーツ施設があるため、過去に大きな大会があると駐車場が足りなく、近隣の住宅に迷惑が掛かったと聞いている。個人的な見解だが市内で大きなイベントがあると駐車場が足りないイメージがある。
◆事務局
今後、北駐車場を食育センター側に広げ現在の 80 台から 120 台へ駐車台数が増える予定。総合体育館前に 50 台分の駐車スペースを新設となった。
□委員
図書館南側の緑地帯は何に使っているのか。
◆事務局
整備している土地ではないため、通常は使わせておらず、お祭り等の大きなイベントやイベントが重なった時に臨時駐車場として開放している。また、災害時には自衛隊が滞在する場にもなる。
□委員
普段使われておらず、常時開放されていると良いと一市民として思う。記念館にもアクセスしやすくなり、人通りも増えると思うのだが。
◆事務局
同じような意見もいただいてる、管理している建設部に話を伝えたい。
基本的に公園なので緑がないといけない、元々あった緑を大分削って駐車場を増設した経緯もあるので、あの緑地帯を舗装化することはできない。緑地帯のまま開放するには常時草刈りなどの手入れをしなければならないことから、大きなイベントのみ臨時開放させていると思われる。

□委員
　総合体育館で大会が行われる際、必ずそこを使ってくれれば良いのだが、北駐車場等の指定駐車場以外が使われ、停めたくてうろうろする車を見かけるので使い方がもったいないと感じている。
◆事務局
　大きいイベントある際は、総合体育館やカルチャーセンターが上手く情報共有し、緑地帯への駐車を案内していると聞いている。
□委員
　コロナの５類移行以降、大きな大会もあるので、必ず借りて駐車場にしてもらったほうが良いと思った。
◆事務局
　そこは指定管理者に伝えておきたい。
■議長
　様々な公共施設が密集してて使い易いと思う、ハーフマラソン等初めて来られる方向けに駐車場を含めたパンフレット的な物は配布しているか。
◆事務局
　参加ランナーに対しては、駐車場の位置図を同封している。またホームページで周知しており、今後も周知徹底に努めたい。
■議長
　他の自治体へ行くとチラシや地図をもらうこともある、他の自治体から来た人には必要な親切さだと思う。
□委員
　他自治体では駐車場が有料の施設もある、そういった自治体と比較すると伊達市は優しいと感じている。

□委員
　ミュージアムの市外の利用者はどれくらい来ているか。
◆事務局
　入館者に市内・市外を確認していないので判別が難しいが、企画展のアンケート結果をみると市外の方が多い印象。
□委員
　ツアーで来ている方もいるのか。
◆事務局
　民間会社が企画するツアーだと外国人が多いが、国内の団体だとほかの自治体の高齢者大学や札幌圏の修学旅行となる。
□委員
　新市長となり、方針が出され７つの項目もある。
　社会教育として、令和６年度市長の方針を受け、力を入れたい事業があれば教えていただきたい。
◆事務局
　例えば、前市長からの継続にはなるが子ども関係でいけば、安全面を考え小学校敷地内に児童クラブを建設し、子ども達が安全に登所できる環境づくりで建設事業を行うことを考えている。
　文化財でいけばミュージアムをプラットホームとして、そこから北黄金貝塚や善光寺といった歴史資産に誘導していこうといった指示をいただき構築している最中。併せて、旧伊達邸庭園が開拓の歴史からも含めて多くの人に知ってもらえるよう努めていきたいと考えている。

部活動の地域移行、土日に関しては完全移行しており、平日についてもどんどん拡大している、教職員の働き方改革もあるが、子どもたちがスポーツを行う選択肢の確保につながる。

ミュージアムが通年開館となった。また、現図書館を壊さず遊戯施設にするといった、子どもに対してのハード面に注力されている。

□委員

社会教育事業に予算は多くついたのか。

◆事務局

カルチャーセンターの改修事業などハード面の予算をつけていただいた。

■議長

今年度の西いぶり定住自立圏文化事業ＰＲは。

◆事務局

令和６年度は登別市で小朝師匠の落語独演会が開かれる。

■議長

スマホで色々な情報が見れるが、外国人向けにまとめて発信は。

◆事務局

全体は整備できていないが、世界から目が向けられている世界遺産北黄金貝塚の資料に関してはアプリで英語・中国語・韓国語で聞けるようなシステムが導入されており、世界の方が興味ある部分から進めたところである。

■議長

個人の外国人旅行者も増えている、一つでも情報を多く流した方が良いと思っている。

４．意見交換・その他

特になし

５．閉　会

令和６年度
第１回伊達市社会教育委員会議

日時　令和６年　６月１９日（水）午後６時３０分～

会場　伊達市役所第２庁舎　第１会議室

伊 達 市 教 育 委 員 会

会　議　次　第

１．開　　会　　伊達市教育委員会　　生涯学習課長　　上　山　昭　二

２．開会あいさつ　　伊達市教育委員会　　教育長　　影　山　吉　則

３．議事

（１）報告第１号　　令和６年度教育行政執行方針について・・・・・・・・・〔資料１〕

（２）報告第２号　　令和５年度社会教育事業実績報告について・・・・・・・〔資料２〕

（３）報告第３号　　令和６年度社会教育事業計画について・・・・・・・・・〔資料３〕

４．意見交換・その他

６．閉　　会

【参加者名簿】

〔社会教育委員〕　　※５０音順

氏　　名	就任年月日	備　　考
安孫子　孝　次	令和 元 年　５月　１日	伊達メセナ協会　事務局長
伊　藤　光　輝	令和 ５ 年　５月　１日	伊達青年会議所
伊　藤　成　子	平成１９年　５月　１日	つどいサークル「ドロップ」　代表
小　田　尚　記	令和 ５ 年　５月　１日	伊達市ＰＴＡ連合会　会長
北　越　政　則	平成２９年　５月　１日	元青少年指導センター　指導員
小　谷　洋　史	平成１９年　５月　１日	伊達 favoriteCLUB　顧問
小　林　浩　路	平成２７年　５月　１日	元教育部指導室　指導員
佐　藤　　淳	令和 ５ 年　５月　１日	伊達市校長会　会長（東小学校 校長）
佐　藤　　誠	平成２８年　６月　１日	伊達市文化協会　事務局長
神　　洋　平	平成３０年　５月２４日	伊達シニアクラブスポーツ少年団 代表指導者
鳴　海　摩里子	令和 元 年　５月　１日	伊達市スポーツ推進委員
藤　村　　学	令和 ５ 年　５月　１日	北海道伊達開来高等学校　校長

〔伊達市教育委員会〕

所　　属	氏　　名	所　　属	氏　　名
教育長	影　山　吉　則	青少年・スポーツ係長	菊　地　祐　二
教育部長	山　根　一　志	文化財係長	永　谷　幸　人
生涯学習課長	上　山　昭　二	文化財係主査	黒　田　格　男
図書館長	阿　部　　博	社会教育係長	山　田　大　樹
図書館業務係長	橋　本　拓　和		

○伊達市社会教育委員に関する条例　　平成12年３月29日条例第23号
改正　平成26年３月20日条例第10号

伊達市社会教育委員の定数及び任期に関する条例（昭和24年条例第26号）の全部を改正する。

（設置）

第１条　社会教育法（昭和24年法律第207号。以下「法」という。）第15条の規定に基づき、伊達市に社会教育委員（以下「委員」という。）を置く。

（定数）

第２条　委員の定数は、12人以内とする。

２　委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、伊達市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が委嘱する。

（任期）

第３条　委員の任期は２年とする。ただし、欠員を生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（解嘱）

第４条　教育委員会は、特別の事情があると認めたときは、委員の任期中であってもこれを解嘱することができる。

附　則

（施行期日）

１　この条例は、平成12年４月１日から施行する。

（経過措置）

２　この条例施行の際、現に改正前の伊達市社会教育委員の定数及び任期に関する条例の規定により委嘱を受けていた委員の任期は、平成13年４月30日までとする。

附　則（平成26年３月20日条例第10号）

この条例は、平成26年４月１日から施行する。

○伊達市社会教育委員会議規則　　平成15年６月27日教育委員会規則第４号
改正　平成20年12月25日教委規則第12号

（目的）

第１条　この規則は、伊達市社会教育委員（以下「委員」という。）の会議について必要な事項を定めるものとする。

（議長及び副議長）

第２条　委員の会議（以下「会議」という。）に、委員の互選により議長及び副議長を各１名を置く。

２　議長及び副議長の任期は、委員の在任期間とする。

３　議長は、会議を代表し、議事その他会議の事務を総理する。

４　副議長は、議長を補佐し、議長に事故あるときは、その職務を代理する。

（会議）

第３条　会議は、教育長が招集する。ただし、在任委員の３分１以上の者から会議の招集の請求があったときは、教育長は、これを招集しなければならない。

２　会議は、在任委員の過半数が出席したときに成立し、議事はその過半数により決する。可否同数のときは、議長が決するところによる。

（庶務）

第４条　会議の庶務は、教育部生涯学習推進課において処理する。

（その他）

第５条　この規則に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附　則

この規則は、公布の日から施行する。

附　則（平成20年12月25日教委規則第12号）

この規則は、公布の日から施行する。

令　和　６　年　度

教 育 行 政 執 行 方 針

北 海 道 伊 達 市 教 育 委 員 会

目　　次

１　はじめに　１～３

２　教育行政に臨む基本姿勢　４～７

３　推進項目　８～22

（１）　学校教育　８～16

（２）　社会教育　17～18

（３）　歴史・文化芸術　19～21

（４）　スポーツ　22

４　むすび　23

１　はじめに

令和６年第１回伊達市議会定例会の開会にあたり、教育行政の執行に関する主要な方針につきまして申し上げます。

今、世界が抱える社会問題は、貧困、飢餓、紛争、気候変動、自然災害、人口、ジェンダー、教育格差等、多岐にわたります。これらの問題は複雑で解決には困難を要しますが、だからこそ、我が国が2002年に提唱したＥＳＤ（Education for Sustainable Development「持続可能な開発のための教育」）の理念に基づいた教育の重要性を再認識する必要があります。この理念は現行の学習指導要領にも組み込まれており、地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身に付けるための教育を目指すものであり、これは、本市の教育の基本理念「自立・協働・創造」の具現化を図る学習の一つである「ふるさと創生教育『だて学』」の根幹を成す「グローカル教育」（Glocal = Think globally, act locally.「地球規模の視野で考え、地域の視点で行動する。」）と軌を一にするものです。つまり、現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なことから取り組むことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会の実現を目指す創り手を育む教育活動なのです。

このことが、2015年に国際社会全体の目標として定められたＳＤＧｓ（Sustainable Development Goals「持続可能な開発目標」）の達成に貢献するものとされ、「誰一人取り残さない（Leave no one behind）」を理念としたＳＤＧｓの目標４「質の高い教育をみんなに」を念頭に置き、学校や地域における足元の課題解決を大切に、ＥＳＤを推進していくことが重要であると考えられております。

我が国においては、このような教育理念・目標のもと、現代社会の複雑多岐にわたる課題に立ち向かうためには、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を融合させたシステムにより経済発展と社会的課題の解決を両立するＳｏｃｉｅｔｙ 5.0（超スマート社会）が、今後目指すべき社会の姿であると示されました。このことから、学校教育においては「教育ＤＸ（デジタル・トランスフォーメーション）」を確実に進め、これからの学びの基盤とする必要があります。校務等のデジタル化はもとより、「ＧＩＧＡスクール構想」におけるタブレット端末を学習ツールとしたハイブリッド型授業から、ＤＸベースの授業改善を進め、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に発展させた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向かわなければなりません。

さて、学校教育の変革が進む中、「人生１００年時代」の到来により、「ライフロング・ラーニング（生涯学習）」の考え方のもと、人が生涯にわたり学びを続けていくことや、異なる世代の人々が同じ社会で活躍するための社会教育の重要性も高まっております。このことから、本市においては、学校教育と社会教育等のあらゆる学びの場面を通して「人生１００年時代の社会人基礎力」を育成するとともに、本市教育の基本理念にある人材育成と社会の実現を目指してまいります。

そのためにも、地域を理解し、仲間と協働して課題解決に当たる資質・能力を育むことをねらいとする「だて学」の重要性がますます高まっていると考えます。本市の学校教育におきましては、これまで以上に、市内の市立・道立学校が「『だて学』コンセプト・フロー」に基づき、発達段階に応じた学校種ごとの目標達成に向け、地域や関係機関・団体等と組織的・計画的に緊密な連携を図っていく必要があります。このことが、生涯を通して学びに向かう姿勢を育む社会教育の活性化につながり、地元愛に根差した地域創生の原動力となる「伊達プライド」を持った「伊達人（だてびと）」の育成につながるものと考えております。

伊達市教育委員会といたしましては、「第２次伊達市教育振興基本計画」に基づいた各種教育施策の取組に加え、北海道伊達開来高等学校の特色化・魅力化への支援、北海道伊達高等養護学校の本市と連携した教育活動への支援と、幼保小中義務教育学校との系統性を図った教育の実施等について、「Ｔｅａｍ　Ａｌｌ　ＤＡＴＥ　Ｓｃｈｏｏｌｓ」をスローガンに掲げ、市をはじめ、学校、家庭、地域や関係機関・団体等との連携を強化して教育行政を推進してまいります。

２　教育行政に臨む基本姿勢

ここで、今後の教育行政に臨む基本姿勢につきまして申し上げます。

教育を取り巻く現状と課題を踏まえ、本市の教育理念「自立・協働・創造」の目指すべき方向性にある「自立」は「夢を志に高め、たくましくしなやかに、生涯を通じて挑戦し続ける人の育成」、「協働」は「共に学び育ちあう絆を強くし、地域が人を育み、人が地域を創る社会の実現」、「創造」は「郷土の歴史と文化を継承・発展させ、新しい価値観を創出する人の育成」とした意義を再確認し、教育活動の更なる充実・発展を図らなければならないと考えております。

以上のことを基本姿勢として、自らが伊達市の将来を創り出していくという主体性を持った人づくり、郷土の歴史や文化を誇りに思い、生涯にわたり生きがいを持って活躍できる学びづくりのため、

学校教育におきましては、

「社会を生き抜く力を育む教育の推進」として、持続可能な社会の創り手を育成するＥＳＤが、持続可能な開発目標であるＳＤＧｓを達成するために不可欠である質の高い教育の実現に貢献するということを念頭に置いた教育活動を目指さなければなりません。

その前提として、「教育ＤＸ」による学校の教育活動や校務等のデジタル化を図ることにより、教職員の働き方改革はもとより、児童生徒がデジタル社会を生き抜く力を育んでまいります。

併せて、「豊かな心を育む教育の推進」として、多様性を尊重する心を育む教育活動を推進するとともに、体力向上、食育及び健康教育を目的とした「健やかな体を育む教育の推進」を図ってまいります。

また、「地域とともにある学校づくりの推進」として、「だて学」を通して、市立学校と道立学校の連携を強化するとともに、北海道伊達開来高等学校の特色化・魅力化や北海道伊達高等養護学校の地域連携活動への市の支援による教育活動等の成果を市立学校へ波及させるなどして、市立学校の教育活動等の充実・発展を図ってまいります。更に、学校運営協議会において地域住民や保護者が主体的に学校運営に参画し、学校と地域が一体となって子どもたちを育む地域総がかりの教育の推進により、子どもたちの地域貢献や社会参画意識の醸成を図り、学校と地域の活性化を目指してまいります。

「信頼される教育環境の整備」としては、学校は児童生徒の生命と身体を守り、豊かな学びを保障するために、安全・安心な場でなければなりません。とりわけ、近年の夏季期間の猛暑への対策として、「伊達市立学校管理規則」の改正による学校の長期休業期間の拡大、市立学校の普通教室等へのエアコン設置をはじめ、夏季期間中の教育活動等のあり方を見直すとともに、平時から児童生徒の健康管理の徹底を図る校内体制の構築を図ります。また、スクールガードリーダーや地域住民の見守り活動団体と連携し、子どもの安全確保に努めてまいります。

社会教育におきましては、

「ふるさと意識を育て地域づくりに参画する青少年教育の推進」として、次の時代を担う青少年が様々な体験や幅広い世代との交流を通じて創造性や協調性等を身に付け、夢や目標を持って健やかに成長できるよう、市民団体と協力し青少年教育事業の充実を図るとともに、伊達の魅力を改めて感じ、愛着や誇りを持つよう「だて学」に積極的に取り組み、青少年の新たな価値を生み出す資質・能力を育んでまいります。

また、「共に支えあう地域づくりを目指す社会教育の推進」として、市民カレッジや市民講座、長生大学等において「オトナのだて学」と冠した講座等の充実に取り組んでまいります。

「放課後児童クラブ」につきましては、学校と連携を図りながら、児童や保護者にとってより良い放課後等の居場所、学習や交流の場となるよう事業の充実・改善を進めてまいります。

図書館につきましては、「図書館整備基本構想」に基づき、幼児から高齢者までの様々な世代に応じた読書活動の推進はもとより、多様な人々との出会いや交流の場となるよう、新図書館の整備事業を進めてまいります。また、「伊達市立図書館運営基本方針」に基づき、図書館運営協力会やボランティア団体等と連携し、現図書館の運営の充実・改善に努めてまいります。

歴史・文化芸術におきましては、

「特色ある地域文化の推進」として、芸術鑑賞事業や文化芸術活動への支援等を通じて、地域の特性を活かした多様な文化芸術の充実・発展に努めてまいります。

また、「歴史文化を活かしたまちづくりの推進」として、世界文化遺産である「史跡北黄金貝塚」につきましては、引き続き、文化遺産としての価値の周知だけでなく、教育資産としての活用推進のために「だて学」を通して学校教育と連携し、児童生徒への理解促進を図るなどの取組を行うほか、洞爺湖町の「入江・高砂貝塚」とも連携し世界遺産の魅力を発信する「ルート 37 の世界遺産ＪＯＭＯＮ」の取組を推進してまいります。

だて歴史文化ミュージアムにつきましては、縄文文化・アイヌ文化・武家文化が融合した特色あるまちの歴史文化を俯瞰的に理解することができ、市内の地域ごとに点在する歴史文化資産を繋ぐプラットフォームのような施設となるよう展示内容を工夫するとともに、市内の学校をはじめ周辺観光施設や施設の指定管理者との連携により、「学究の場」と「集い学び合える場」となるよう努めてまいります。

カルチャーセンターにつきましては、市民の文化芸術活動や生涯学習の拠点であることから、施設の指定管理者とＮＰＯ法人伊達メセナ協会

や伊達市文化協会等が連携を強化し、市民の文化芸術振興の持続的発展を目指すよう支援してまいります。

スポーツにおきましては、

「豊かな心身を育むスポーツの振興」として、とりわけ総合体育館においては、ニュースポーツを含めた生涯スポーツの取組の拡充を図るため、施設の指定管理者とＮＰＯ法人伊達スポーツ協会等の関係団体が連携を強化し、健康づくり事業やスポーツ教室、各種大会の開催に加え、市民のスポーツ振興の充実に向け支援してまいります。また、利用者アンケート等による評価等を踏まえ、施設管理・運営の充実・改善に努めてまいります。

また、学校の運動部活動の地域移行の更なる充実と地域における新たなスポーツ環境の構築、子どもたちが親しみやすい運動の啓発等、学校と伊達スポーツクラブ“藍”との連携を強化してまいります。

以上を基本姿勢として、教育行政を執行してまいります。

３　推進項目

それでは、令和６年度の推進項目と主要な施策につきまして申し上げます。

（１）　学校教育

第一は、学校教育についてであります。

社会を生き抜く力を育む教育の推進

「人生１００年時代」と言われる現代社会において、児童生徒一人ひとりが自らの将来やキャリアについて考え、どのように自己実現を目指すかを意識し続けることや、それに応じて社会を生き抜く力を身に付けていくことは、どの年代においても重要です。

第２次伊達市教育振興基本計画の基本理念の「自立」にある「夢を志に高め、たくましくしなやかに、生涯を通じて挑戦し続ける人の育成」の実現に向け、地元愛に根差した地域創生の原動力となる「伊達プライド」を醸成するため、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」である「社会人基礎力」としての３つの能力、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を育む教育活動を推進してまいります。

また、ＳＤＧｓの根本にある、持続可能かつ誰一人として取り残すことのない社会の実現のためには、ＥＳＤの理念である、これからの社会を生きる子どもたちに対し、現代社会の様々な問題を自らの問題として主体的に捉えることや、問題の解決について地球規模の視野で考え、地域など身近な視点で行動できるグローカルな資質・能力を育むことが重要であることから、グローカルな視点を持ちながら、子どもたちがチームで課題を発見し解決する学習を推進してまいります。また、地域を担

う人材の育成を目指し、これからの地域を担う人づくりに向けたキャリア教育・ふるさと創生教育である「だて学」の充実のため、「『だて学』コンセプト・フロー」で示した小学校入学から高校卒業までの発達段階ごとの目標達成に向け、市立学校と道立学校との連携を図り、社会を生き抜く力を育む取組を進めてまいります。

夏季期間中の教育活動につきましては、教育委員会が学校と連携して作成した教育活動等におけるガイドラインに基づき、暑さ指数に応じた活動を徹底してまいります。また、近年の猛暑による長期休業期間の拡大に伴い、学校で学ぶべき標準時数の確保が重要となることから、改めて保護者・地域社会への影響について配慮しながら、確実な時数確保に向け課題の検証を実施してまいります。

変化の著しい社会にあって、子どもたちがしなやかに生きていくためには、知識を創造したり活用することを通じて、得た知の力を実感できる学習の実現が必要です。同時に、知識や経験を基に将来を見通し、主体的に判断する探求の力や、情報や情報手段を主体的に選択し活用する力も求められております。

今後も不確かで予測困難な時代が続くと思われますが、引き続き、子どもたちの学びを止めることなく、子どもたちに基礎・基本の徹底を目指し、「全国学力・学習状況調査」や「伊達市学力テスト」等を分析し、各校の課題を明確にした改善プランを立て学力の向上に努めるとともに、将来を担う子どもたちが自分らしく生き生きと学び、チャレンジするための一助として、英語検定や漢字検定など資格取得の支援を促進し、学力向上や将来の進路を考える意識の醸成に努めてまいります。

また、「ＧＩＧＡスクール構想」により導入されたＩＣＴ機器や高速大容量の通信ネットワークを活用したオンライン学習を推進するとともに、対面授業の利点を活かしながら、オンラインを組み合わせたハイブ

リッド型授業の工夫・改善を推進してまいりましたが、今後は、「教育ＤＸ」を基盤とした「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に発展させた「主体的・対話的で深い学び」を実現できる授業改善を目指さなければなりません。

特別支援教育につきましては、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育の場を提供し、自立や社会参加に向けた教育を進めるとともに、個別の教育支援計画に基づいた指導の工夫改善がされるよう、伊達高等養護学校や児童心理治療施設、医療、福祉、保健等の関係機関及び保護者との連携のもと、長期的な視点で教育的支援を行う取組を推進してまいります。

また、小中義務教育学校に、特別支援教育支援員や介護員を障がいの程度に応じて適切に配置するとともに、特別支援教育に関する研修機会を充実させ、児童生徒個々の教育的ニーズに応じたきめ細かな支援を行ってまいります。

いじめはどの子どもにも、どの学校にも起こりうるとの認識のもと、学校、家庭、地域が連携し、児童生徒が主体となる取組を通して、いじめをしない、見逃さない、許さない指導のため、教職員のみならず児童生徒の意識醸成に努めてまいります。

特に、昨今、ＳＮＳ等によるネットトラブルも報告されており、いじめの一因となっていることから、家庭と連携した情報モラルの指導を継続するとともに、引き続き「伊達市こどもＬＩＮＥ相談」を活用した相談体制の充実を図ってまいります。

国際理解教育の推進につきましては、外国語学習の特質を踏まえ、児童生徒が外国語に多く触れ、実際のコミュニケーションに基づいて学習が進められることや、自国と他国の文化や多様性について理解できることが重要です。学校教育では、外国語の言語活動の充実・改善を進めると

ともに、外国語指導助手を学校へ派遣し、外国語を用いた対話や外国の文化・習慣に触れる機会の充実を図ってまいります。また、子どもたちが主体的に外国の文化や言語、よさに触れられる機会として、「だてっ子イングリッシュ・アドベンチャー」の内容の充実を図り、実践的なコミュニケーション能力やチャレンジ精神を身に付けられるよう取組を進めてまいります。

安全・防災教育の充実につきましては、過去の例から地震等により噴火の前兆が観測できる有珠山噴火や、突然襲ってくる予測困難な災害や大地震による津波等の自然災害に備え、児童生徒が安全に関する資質・能力を身に付け、自ら適切な行動ができるよう、地域と共に実践的な避難訓練等を実施し、防災意識の向上を図ってまいります。

豊かな心を育む教育の推進

子どもたちが将来、自立した人間として主体的に判断し、他者とよりよく生きていくためには、基盤となる道徳性を養うことが重要です。学校教育全体を通して、道徳教育と人権教育との関連を図り、互いの違いやよさ、ジェンダー等、性の多様性を学ぶとともに認め理解し合いながら、自分と同じように他者も尊重できる態度を養う教育活動を進めてまいります。

いじめの未然防止に向けた教育活動につきましては、いじめは重大な人権侵害であり、許されない行為であるという意識を高めるため、人権教育の充実を図ってまいります。また、「子どもたちをいじめの被害者・加害者・観衆・傍観者にしない」観点から、「いじめ防止対策推進法」や「伊達市いじめ防止基本方針」等に基づき、ＬＩＮＥ相談を含めた教育相談やアンケート調査、北海道教育委員会と学校によるネットパトロール等を

通じて、児童生徒の変化や状況を把握し、いじめについて、未然防止のほか、初期段階のものを含めた積極的認知と、解消に向けた早期発見及び早期対応に努めてまいります。また、学校、家庭、地域、関係機関等と連携を深め、いじめの問題に対し、総合的かつ適切に対応してまいります。

更に、児童生徒の人間関係の構築や社会で生き抜く力、表現力や共感力を向上させ、更には学校生活における、いじめの未然防止にもつなげていくために、年度当初に、中学校において、プロの指導者によるコミュニケーション力を高めるワークショップを実施し、他者との関わり方を学ぶとともに、協働作業による達成感を味わうことができる取組を進めてまいります。

児童生徒の悩みや生徒指導につきましては、教職員だけでの対応や解決が難しい事例も増えてきております。子どもたちが安心して笑顔で学校に通うためには、学校における日常的な教育相談や家庭との連携等により、子どもたちの変化を早期に発見し対応することが重要です。こうした児童生徒の様々な悩みに対しては、スクールカウンセラーを活用し、安心して悩みを相談できる体制を維持するとともに、各校における組織的な対応が徹底されるよう、生徒指導・教育相談に係る研修機会を充実させ、児童生徒の置かれている状況や抱えている問題・悩みに応じて適切に対応してまいります。

また、不登校対策につきましては、個々の児童生徒に応じた支援策を策定し、学校を中心として組織的・計画的に支援していくことが重要です。各校における支援策を基盤として、学校と教育委員会が連携し、スクールソーシャルワーカーや不登校児童生徒サポートハウス「こどもの国フェニックス」を活用した取組の充実を図るほか、訪問支援やオンラインの活用など個々に応じたアプローチの検討・改善を行い、社会的自立や学校復帰に向けた支援に取り組んでまいります。

健やかな体を育む教育の推進

体力向上につきましては、市内共通の取組としての縄跳び運動を推進するとともに、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」や「伊達市体力テスト」の結果に基づいて体力向上プランを作成し、体力向上に向け、学校全体で継続性のある取組を推進してまいります。

また、地域や家庭には、体力向上や継続的な運動の必要性について引き続き啓発を進め、子どもたちの健全な心身の育成を強化してまいります。

食育・健康教育につきましては、学校が主体性を持ち、関係機関と連携しながら、組織的・計画的に指導に取り組むことが重要です。児童生徒の望ましい食習慣の定着を図るため、栄養教諭未配置校に対する派遣事業を継続するとともに、食育センターを有効に活用しながら家庭科、体育科、保健体育科の学習や給食の時間等を通して、食育の取組の充実を図ってまいります。

また、子どもたちが生涯にわたって心身ともに健康な生活を送ることができるよう、関係機関と連携し、薬物乱用の有害性や危険性のほか、性やジェンダーに関する正しい理解を深める指導の充実を推進してまいります。

学校給食につきましては、児童生徒が食文化や地産地消に興味関心が持てるよう、各地の郷土料理や地場産食材を積極的に取り入れた献立づくりに取り組むとともに、学校給食費保護者負担支援事業により、子育て世帯の負担軽減を図ってまいります。更に、だて歴史の杜食育センターの運営法人が実施する自主事業につきましては、市民の健康増進等に資する取組の充実に向け、関係団体等との連携について働きかけてまいります。

がん教育の充実につきましては、がんに関する理解を深めるため、食生活はもとより生活習慣が健康に及ぼす影響や予防等について、体育科、保健体育科の授業や外部講師による「出前授業」を活用し、引き続き取組を進めてまいります。

地域とともにある学校づくりの推進

コミュニティ・スクールにつきましては、各学校運営協議会において学校経営方針や教育活動等について熟議するとともに、小学校の統廃合に伴い地域との連携が薄れることなく、これまでと同様の連携が図られるよう、地域とともにある学校づくりに向け地域住民や保護者が主体的に学校運営に参画し、学校と地域が一体となって子どもたちを育むなど、地域総がかりの教育と学校を拠点とした地域づくりを目指してまいります。また、学校運営協議会委員の情報交換や連携のほか、教職員のコミュニティ・スクールへの認識を深めることを目的とした研修会を実施してまいります。

子どもたちが地域の歴史、文化芸術、伝統芸能に触れることは、地域のよさを知り、豊かな情操を育むうえで重要です。「だて学」の一環として、地域の文化芸術や伝統芸能に携わる人材や団体、だて歴史文化ミュージアムとの連携や、姉妹都市等との学習交流等を推進し、子どもたちがふるさと伊達市のよさを体感し、豊かな情操が育まれるよう、引き続き取組の充実を図ってまいります。

異校種間の連携・接続につきましては、子どもたちが進級や進学をする際に、一人ひとりの持つよさや可能性が十分に発揮されるよう、異なる学校種にわたって教育を見通し、指導内容の連続性や系統性を重視した連携を推進し、とりわけ北海道伊達開来高等学校と教科指導を中心と

した連携を強化してまいります。

子どもたちにとって最大の教育環境は学校の教職員です。教職員は教育公務員として、子どもたちの人格形成に大きな影響を与える立場であり、最も身近な大人の一人として、自ら研鑽を深め続けることや、高い倫理観が求められます。

教職員の資質・能力の向上につきましては、市内教職員の指導力の向上や指導体制の充実を目的とした研修会を開催するとともに、各校において日常的に学び合う校内研修の充実はもとより、北海道教育委員会等が行う研修事業への参加について働きかけてまいります。

また、体罰防止、交通規則遵守など、教職員の服務規律保持の徹底につきましては、学校教育が児童生徒や保護者、地域住民との信頼関係の上に成り立っていることを強く自覚し、一人ひとりの教職員が「教育のプロ」としての高い倫理観を保持するため、校内研修等の充実及び改善を図るとともに、「伊達市立学校における働き方改革～伊達市アクション・プラン（第３期）～」に基づき、学校、家庭、地域及び教育委員会が緊密に連携し、校務支援システムを活用した校務のデジタル化・オンライン化による学校教育の充実と教職員の働き方改革の推進に努めてまいります。

信頼される教育環境の整備

学校施設につきましては、「伊達市学校施設長寿命化計画」に基づき、「伊達小学校校舎改築事業」や「伊達中学校校舎等トイレ改修事業」等、計画的に工事を実施し、老朽化が進む校舎、設備の改修や適切な維持管理により、安全・安心な教育環境の確保に努めてまいります。

学校の安全対策につきましては、引き続き、関係機関で組織している

「登下校安全対策推進会議」の中で、通学路における危険箇所の現地確認及び会議を開催し、保護者、学校及び警察による安全に係る取組を継続するとともに、スクールガードリーダーや地域住民の見守り活動団体等と連携し、子どもの安全確保に努めてまいります。

（２）　社会教育

第二は、社会教育についてであります。

ふるさと意識を育て地域づくりに参画する青少年教育の推進

次の時代を担う青少年には、様々な体験や幅広い世代との交流を通じて創造性や協調性等を身に付け、夢や目標を持って健やかに成長できるよう、市民団体と協力し青少年教育事業の充実を図ってまいります。

更に、地域のリーダー育成のため、青少年に対する各種研修や交流事業への参加を促進し、模範となる行いを顕彰することにより誇りと自信を高め、豊かな心と実践力の育成に努めてまいります。

また、伊達の魅力を改めて感じ、愛着や誇りを持つよう「だて学」に積極的に取り組み、青少年の新たな価値を生み出す資質・能力を育んでまいります。

共に支えあう地域づくりを目指す社会教育の推進

市民への生涯にわたる学習機会の提供につきましては、「市民カレッジ」等の各種講座に多くの市民が参加できるよう、メニューや実施日時等を工夫してまいります。「市民講座」につきましては、更なる講座内容の充実を図るよう、実施主体のカルチャーセンター指定管理者と連携してまいります。

「長生大学」につきましては、学習内容の工夫・改善や学習活動の活性化に努め、高齢者の向学心に応えるとともに、健康で心豊かな生活を送ることや仲間づくりの場としての役割を担ってまいります。

また、「だて学」を広く市民の方にも学んでいただけるように、市民カレッジ、市民講座、長生大学等において「オトナのだて学」と冠した講座

等の充実に取り組んでまいります。

「放課後児童クラブ」につきましては、学校と連携を図りながら、児童や保護者にとってより良い放課後等の居場所、学習や交流の場となるよう事業の充実及び改善を進めてまいります。

男女共同参画の推進につきましては、胆振女性リーダー養成研修への参加者派遣や教養講演会等を開催し、啓発活動を推進してまいります。

図書館につきましては、「図書館整備基本構想」に基づき、幼児から高齢者までのそれぞれの世代に応じた読書活動の推進や知的好奇心に応えるとともに、多様な人々との出会いや交流の場となるよう、新図書館の整備事業を進めてまいります。

また、北海道立図書館や近隣地域の図書館との連携により、市民サービスの向上に努めるとともに、「伊達市立図書館運営基本方針」に基づき、居心地の良い魅力ある図書館を実現するため、図書館運営協力会と連携して、現図書館の運営改善を図り、市民の生涯学習活動やリスキリング、リカレント教育を支援する環境の充実を図ってまいります。

更に、ボランティア団体や市立学校及び道立学校との連携により、各種事業を通じて読書習慣を醸成するとともに、読書普及活動の推進を図ってまいります。

（３）　歴史・文化芸術

第三は、歴史・文化芸術についてであります。

特色ある地域文化の推進

文化芸術につきましては、カルチャーセンターやだて歴史文化ミュージアム等を活用し、施設の指定管理者や関係団体等と連携しながら、質の高い芸術文化の鑑賞機会を提供するとともに、小中学生に対し、創造性や感性を育むため文化芸術鑑賞の機会を提供する「巡回小劇場事業」を継続実施してまいります。

文化芸術活動の普及につきましては、市民が文化芸術活動を発表・展示できる場として、伊達市文化協会との共催事業である「伊達市民総合文化祭」の開催を通じ、活動の活性化に資する支援を進めるとともに、噴火湾文化研究所におきましては、事業の受託者と連携し、市民等が高度な技術を学ぶことが出来る絵画教室を継続実施してまいります。

カルチャーセンターにつきましては、市民の文化芸術活動や生涯学習の拠点であることから、施設の指定管理者とＮＰＯ法人伊達メセナ協会や伊達市文化協会等が連携を強化し、市民の文化芸術振興の持続的発展を目指すよう支援してまいります。また、「カルチャーセンター長寿命化計画」に基づき「大ホール舞台吊物装置改修事業」等を実施するとともに、老朽化が進む建物、設備の改修や適切な維持管理により、安全・安心な環境の確保を図ってまいります。

伝統芸能・郷土芸能につきましては、地域や関係団体と学校の教育活動等との連携を図り、コロナ禍による活動縮小からの再開を支援するな

ど、その普及と伝承に力を入れてまいります。

歴史文化を活かしたまちづくりの推進

本市は、世界文化遺産である「北黄金貝塚」をはじめとする縄文文化と、この地に根付いたアイヌ文化、そして仙台藩亘理伊達家の移住による武家文化が融合した、道内では稀な歴史文化を基盤とするまちであります。この郷土の歴史と文化を市民が理解し、誇りに思えるようなまちづくりを進めてまいります。

世界文化遺産である「史跡北黄金貝塚」につきましては、引き続き、文化遺産としての価値の周知だけでなく、教育資産としての縄文遺跡の活用を推進するための取組を行ってまいります。

これまで、展示方法の見直しや駐車場等の整備を行うことで来訪者の利便性や満足度の向上に努めてまいりました。本年度も、来訪者が縄文文化への理解をより深められるよう、ボランティアガイドの養成や技術向上とともに、コロナ禍からの回復が見込まれるインバウンドに対応するため、「北黄金貝塚情報センター」の展示方法等の工夫や改善に努めてまいります。

また、世界文化遺産の教育資産としての活用促進のため、「だて学」を通して学校教育と連携し児童生徒への理解促進を図ってまいります。

更に、縄文遺跡群の広域的な活用促進の一環として、洞爺湖町の「入江・高砂貝塚」との連携により世界遺産の魅力を発信する「ルート37の世界遺産ＪＯＭＯＮ」の取組を推進してまいります。

北海道遺産「蝦夷三官寺」の一つである有珠善光寺につきましては、三官寺が所在する厚岸町や様似町と連携し、児童生徒にもわかりやすいガイドブックを配付して、地域の歴史の文化的価値を伝える取組を行ってまいります。

だて歴史文化ミュージアムにつきましては、特色あるまちの歴史文化を俯瞰的に理解することができる施設として、「史跡北黄金貝塚」や「有珠善光寺」、「旧伊達邸庭園」をはじめとする歴史文化遺産や、地域ごとに点在する「まちなかの歴史文化」を繋ぐプラットフォームとなるよう展示内容を工夫するほか、市内の学校をはじめ周辺観光施設や指定管理者との連携により、「学究の場」と「集い学び合える場」となるよう努めてまいります。

また、冬季閉鎖期間における北黄金貝塚情報センターのガイダンス機能を、だて歴史文化ミュージアムが担うことにより、年間を通じて世界遺産の価値の周知や周遊観光の促進を図ってまいります。

（４）　スポーツ

第四は、スポーツについてであります。

豊かな心身を育むスポーツの振興

「人生１００年時代」と言われる現代において、健康・体力づくりへの関心はますます高まりをみせており、健康で生きがいのある生活が送れるよう、スポーツ・レクリエーション活動の充実が求められております。

ニュースポーツを含めた生涯スポーツの取組の拡充を図るため、健康づくり事業やスポーツ教室、各種大会の開催をスポーツ施設の指定管理者が、ＮＰＯ法人伊達スポーツ協会や伊達市地域体育振興会連絡協議会、スポーツ推進委員会等の関係団体と連携し運営するよう支援してまいります。

また、より多くの市民が総合体育館を利用するために、健康・体力づくりに関する情報発信や健康意識の啓発を充実させるとともに、施設の指定管理者と連携し、利用者アンケート等によるニーズの把握を積極的に行いながら自主事業を実施させることで、市民のスポーツ施設の利活用の促進に努めてまいります。さらに、利用者アンケート等による評価等を踏まえ、施設管理・運営の充実・改善を図ってまいります。

子どもたちの健やかな体を育むには、学校、地域、家庭が一体となり、運動を楽しみながら体力を向上させる機運を醸成していくことが必要です。そのために、運動部活動の地域移行の更なる充実と地域における新たなスポーツ環境の構築や、子どもたちにとって親しみやすい運動の啓発等、学校と伊達スポーツクラブ“藍”との連携を強化してまいります。

４　むすび

以上、令和６年度の教育行政に臨む基本姿勢等につきまして申し上げました。

伊達市教育委員会といたしましては、市民が将来にわたりたくましくしなやかに生き抜くために、望ましい自己実現に向け、夢を描く力、夢を実現する力を育む教育活動の推進に加えて、学校教育と社会教育が協働し、市民一人ひとりが生涯にわたり豊かに学ぶことができるよう、学校、家庭及び地域はもとより、関係機関や団体等との連携を図りながら、本市教育のより一層の充実及び発展に全力で取り組んでまいります。

市議会議員の皆さま並びに市民の皆さまのご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

令和５年度　社会教育事業実施報告書　　【資料2】

事業名　【 社会教育委員関係事業 】　　担当課・係　　生涯学習課社会教育係

事業名（会場）	事　業　概　要	開催日	参加実績	備　考
第１回伊達市社会教育委員会議（カルチャーセンター）	◎R04年度社会教育事業実施報告 ◎R05年度社会教育事業実施計画	R05.05.31	委員９名	
第２回伊達市社会教育委員会議	◎令和５年度教育行政執行方針説明 ◎R05年度事業実施報告（中間報告） ◎R06年度事業計画策定のための意見交換	R05.10	－	【中止】
第３回伊達市社会教育委員会議	◎R06年度事業実施計画ほか	R06.02	－	【中止】
北海道社会教育委員連絡協議会通常総会（札幌市：かでる２・７）	◎R04年度事業実施・決算報告 ◎R05年度事業計画・予算報告 ◆小林委員は道社連協の評議員	R05.04.14	小林委員	旅費は胆社連協負担
胆振管内社会教育委員連絡協議会理事会・総会（室蘭市）	◎R04年度事業実施・決算報告 ◎R05年度事業計画・予算報告 ◆規約で委員２名が出席	R05.05.26	小林委員 伊藤(成)委員	【書面会議】
北海道社会教育委員長等研修会（札幌市：かでる２・７）	社会教育委員及び関係職員を対象とした研修会 ◆小林委員は研修会の企画委員	R05.07.13～ R05.07.14	小林委員	
北海道社会教育研究大会空知大会（長沼町）	社会教育委員及び関係職員を対象とした研修会 ◆Zoomによるオンライン開催	R05.10.20	－	【不参加】
胆振管内社会教育委員連絡協議会研修会・永年勤続表彰式（室蘭市）	胆振管内の社会教育委員及び社会教育関係職員が対象の研修会。	R05.10.13	小林委員 北越委員	
北海道社会教育委員連絡協議会永年勤続功労者表彰候補者推薦	勤続年数１０年以上の社会教育委員を道社連協に推薦。（該当なし）			
胆振管内社会教育委員連絡協議会永年勤続功労者表彰候補者推薦	勤続年数６年以上の社会教育委員を胆社連協に推薦。（北越委員）			

※会議や研修会に出席した委員には、既定の旅費及び日額報酬が支払われます。
※北海道社会教育委員連絡協議会⇒道社連協、胆振管内社会教育委員連絡協議会⇒胆社連協

令和５年度　社会教育事業実施報告書　　【資料2】

事業名　【　　生涯学習事業　　】－１　　担当課・係　　生涯学習課社会教育係

事業名（会場）	事　業　概　要	開催日	参加実績	備　考
マイプラン・マイスタディ事業	市民団体等が行う社会教育に関する講演会等の講師謝礼金の一部を市が負担する事業。 参加者が主催団体の会員など、一部の市民に限定される事業ではなく、一般にも開放されていることが条件となる。 ◎負担上限額：20,000円（令和２年度より）	通年	３件	
だて市民カレッジ 〔第１講座〕 (カルチャーセンター)	「心の音を紡いでいきてゆく」 講師：作曲家 ピアニスト 太田 亜紀子　氏	R05.06.11	94	
だて市民カレッジ 〔第２講座〕 (恵庭市)	「バス見学研修！サッポロビール工場・漁川ダム見学研修」 ・サッポロビール工場 ・漁川ダム ・花のロードえにわ	R05.07.07	30	市バス
だて市民カレッジ 〔第３講座〕 (カルチャーセンター)	「天下人からの手紙～信長・秀吉・家康～」 講師：國學院大學北海道短期大学部 准教授　堀越 祐一　氏	R05.08.19	39	
だて市民カレッジ 〔第４講座〕 (カルチャーセンター)	「整理収納で心地よい暮らし～自分に合った片付けを見付けよう～ 」 講師：収納アドバイザー・『片付け心理学Ⓡ』インストラクター 小野 友美　氏	R05.09.30	37	
だて市民カレッジ 〔第５講座〕 (カルチャーセンター)	「１からわかる骨粗鬆症と健康寿命」 講師：聖ヶ丘病院 院長　目良 浩一　氏	R05.10.21	54	
伊達市長生大学 （カルチャーセンター・有珠白鳥館）	◎伊達長生大学(カルチャー)と有珠長生大学(白鳥館)の２ヶ所を開校。 ◎伊達長生大学は、年間21日の学習日で、午前が講義、午後から実技。 ◎有珠長生大学は午前中のみ開校で、講義又は実技を行っている。 ◎学習日以外の活動としては、見学旅行（２回）、運動会、学芸発表会、ボランティア活動等を行っている。 ◎伊達長生大学には任意加入の部活(市管理外)もあり、独自に活動している。	通年	R06.03.31現在 65歳以上人口 12,247人 R05年度在籍数 伊達　152名 有珠　12名 合計　164名	

※市民カレッジについては「伊達まちカードポイント付与対象事業」で、１講座２０ポイントを付与

事業名　【　　生涯学習事業　　】－２　　担当課・係　　生涯学習課社会教育係

事業名（会場）	事　業　概　要	開催日	参加実績	備　考
女性プラザ祭 （かでる２・７）	札幌市で開催されるイベントに、市民を集い参加する。 ※開催案内が遅く市民周知が間に合わず不参加。	R05.11.06～ R05.11.11	―	【不参加】
家庭教育講座 (カルチャーセンター)	発達段階に応じた適切な家庭教育を行うことで家庭の教育力向上につながるよう保護者の学びの機会の充実を目的に、胆振教育局が実施するオンデマンド胆振研修を利用した家庭教育講座を開催	R05.11.30	11	
男女共同参画パネル展 (カルチャーセンター)	「性の多様性ってどういうこと？」 カルチャーセンターロビーにて開催 ※パネルは北海道立女性プラザより借用。	R05.12.05～ R05.12.10	―	
男女共同参画社会づくり推進事業〔講演会〕 (カルチャーセンター)	「固定観念の呪縛を解く～海上保安官を30年経験して」 講師：室蘭海上保安部苫小牧海上保安署長　蓮見 由絵 氏	R05.12.10	40	
胆振女性リーダー養成研修 （埼玉県比企郡嵐山町）	男女共同参画推進フォーラムに市民３名を派遣する。（胆振管内教育委員会連絡協議会主催事業） ※令和５年度もYouTubeによるオンデマンド研修となった。	R05.12.18	4	
放課後児童健全育成事業 (放課後児童クラブ)	市内全小学校の児童を対象に開設。 ◆保護者が就労等によって昼間家庭にいない児童を対象に受け入れ ◆保育時間は、下校時刻から最大午後６時半まで ◆休日保育は、さくら・あやめ児童クラブで実施 ◆各児童クラブには、会計年度任用職員２名以上を配置 ◆保育料は月額6,000円 ※軽減あり ◆補食（おやつ）あり ◆令和５年度登録状況 （３月末現在） ◎伊達小 うめのこ児童クラブ　41名 さくら児童クラブ　35名 あやめ児童クラブ　40名 ◎東小 第１やまびこ児童クラブ　32名 第２やまびこ児童クラブ　35名 第３やまびこ児童クラブ　31名 ◎伊達西小・関内小・有珠小 ほしのこ児童クラブ　23名 かぜのこ児童クラブ　17名 きたのこ児童クラブ　20名 ◎長和小 ながわ児童クラブ　13名 ◎大滝徳舜瞥学校前期課程 おおたき児童クラブ　9名 合計　296名	通年	R06.03末現在 全児童数 1,265名 ※全寮制で児童クラブがない星の丘小学校を除く。 R05.03末現在 登録数　296名 ※期間通所児童（長期休みのみ通所）を含む。	
宅配講座事業	市職員が講師となり行う座学講座 ◎全58ジャンル ◎参加者が５名以上であれば、自治会や各種サークル等で申込可 ◎会場費等は申請者が負担	通年	〔R05実績〕 74件2,304人	

令和５年度　社会教育事業実施報告書　　【資料2】

事業名　【　　文化芸術事業　　】　　担当課・係　　生涯学習課社会教育係

事業名（会場）	事　業　概　要	開催日	参加実績	備　考
市民総合文化祭2023 （カルチャーセンター）	伊達市文化協会加盟団体ほか長生大学等の非加盟団体が参加する文化祭。（参加23団体）	R05.10.21～ R05.11.26	3,998	
文化・芸術鑑賞講座① （札幌市）	旧市民講座で取り組んでいた舞台芸術鑑賞講座。クラシック音楽やミュージカル等の舞台芸術を学ぶ。 ・座学１回（カルチャーセンター） ・舞台鑑賞１回（劇団四季）	〔事前学習〕 R05.09.11 〔舞台鑑賞〕 R05.09.13	31	市バス
文化・芸術鑑賞講座② （札幌市）	旧市民講座で取り組んでいた舞台芸術鑑賞講座。クラシック音楽やミュージカル等の舞台芸術を学ぶ。 ・座学１回（カルチャーセンター） ・舞台鑑賞１回（札幌交響楽団）	〔事前学習〕 R05.11.08 〔舞台鑑賞〕 R05.11.12	27	市バス
西いぶり定住自立圏文化事業「ジミーオールスターズ プレミアムライブ スペシャルゲスト鈴木聖美」（室蘭市）	◎西胆振６市町（室蘭市、登別市、伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町）で実行委員会を組織し開催している文化公演事業。 ◎３市からの負担金各100万円と売券収入により開催経費を賄っている。 ◎チケット販売は３市の各販売所 ◎チケット販売枚数は848枚（うち伊達市分122枚）	R05.11.18	777	
巡回小劇場事業 〔小学校低学年公演〕 （カルチャーセンター）	市内の小中学生（大滝徳舜瞽学校を含む）対象の舞台芸術鑑賞事業 ◆ＭＪＰグループ 〔音楽〕アステリズム	R05.07.19	594	
巡回小劇場事業 〔小学校高学年公演〕 （カルチャーセンター）	◆劇団たんぽぽ 〔児童劇〕ルドルフとイッパイアッテナ	R05.08.22	711	
巡回小劇場事業 〔中学校公演〕 （カルチャーセンター）	◆劇団民話芸術座 〔児童劇〕銀河鉄道の夜	R05.09.12	742	
市民サークルまつり （カルチャーセンター）	市内文化系サークルによるイベント（文化協会非加盟の１８団体）	R05.09.01～ R05.09.03	452	
現代写実絵画研究所 絵画教室「野田・永山塾」画家育成コース・大人の写実絵画コース （噴火湾文化研究所）	顧問の野田弘志氏と画家の永山優子氏による、小学生から一般（大人）を対象とした絵画教室。	通年	画家育成コース 8 大人の写実絵画コース 30	
現代写実絵画研究所 リアリズム絵画セミナー （噴火湾文化研究所）	リアリズム絵画を志す人を対象としたセミナーで、顧問の野田弘志氏、画家の永山優子氏、外部講師が指導。	通年	24	
北海道ジュニア美術セミナー（防災センター）	小学校４年生から高校生を対象とした絵画教室。初心者には絵画に興味を持ってもらう、中級者にはレベル向上を目的に２日間の開催。	R05.07.15～ R05.07.16	2	
教育関係合同表彰式 （カルチャーセンター）	芸術文化奨励賞　5名 市民スポーツ賞表彰　69名 市民体力づくり運動功績者行賞　4名 合計　78名	R06.02.22	78	

※文化・芸術鑑賞講座については「伊達まちカードポイント付与対象事業」で、１講座２０ポイントを付与

令和５年度　社会教育事業実施報告書　　【資料2】

事業名　【　　歴史事業　　】　　担当課・係　　生涯学習課文化財係

事業名（会場）	事　業　概　要	開催日	参加実績	備　考
だて噴火湾縄文まつりシンポジウム (カルチャーセンター)	縄文文化を学び、親しむためのシンポジウム	R05.08.26	54	
動物考古学セミナー （カルチャーセンター）	動物標本や貝塚から出土した魚や動物の骨を用いた講座・ワークショップ	R06.02.未	47	
文化財防火デー (善光寺・三戸部家住宅)	重要文化財を火災から守るための消防訓練	R05.11.28	24	
アイヌ文様刺繍講座 （カルチャーセンター、市民活動センター）	アイヌ民族の伝統文化を学ぶための講座（２回開催） 講師：伊達アイヌ協会員	①07.08～09 ②11.11～12	30	
道内アイヌ施設視察事業 （札幌ピリカコタン・北海道博物館）	アイヌの伝統文化に関する理解促進のための視察研修	R05.09.02	34	民間バス
縄文ロビー講座・史跡ガイド養成講座 (史跡北黄金貝塚公園)	北黄金貝塚で縄文文化を学び、史跡ガイドとなる人材を養成する講座（月１回の７回開催）	R05.04～11 ※8月除く	98	
復元貝塚再生プロジェクト (史跡北黄金貝塚公園)	史跡公園の復元貝塚の貝殻を更新するため、市民から貝殻を持ち寄ってもらう史跡づくり参加型事業	R05.04～11	15	
縄文の森づくり (史跡北黄金貝塚公園)	北黄金貝塚で縄文文化や古環境を学ぶワークショップ	R05.10.28	12	
ルート37の世界遺産JOMONポスター展示 （イオン伊達店）	国道37号沿線に所在する北黄金貝塚と入江・高砂貝塚（洞爺湖町）を連携してPRするポスター展示	R05.11.27～ R06.01.09	－	

事業名　【　ミュージアム事業　】　　担当課・係　生涯学習課文化財係

事業名（会場）	事　業　概　要	開催日	参加実績	備　考
常設拡大展「端午の節句甲冑展」 （本館２階特別展示場）	端午の節句において甲冑を飾る風習を紹介するとともに武士が甲冑や武具を飾っていた風習にならい、ミュージアム所蔵の甲冑と刀剣を展示する。	R05.04.22～ R05.05.14	605	（要） 観覧料
企画展「伊達藍の歴史」 （本館２階特別展示場）	徳島県人の鎌田新三郎が藍の試作を始めて140年を迎える本年、壮瞥町教育委員会から借用する「鎌田新三郎関係文書」を中心に展示する。	R05.06.03～ R05.07.23	783	（要） 観覧料
常設拡大展「家老・田村顕允」 （本館２階特別展示場）	亘理伊達家の北海道移住の立役者没後110年を期して、家老・田村顕允の功績について展示する。	R05.08.05～ R05.09.24	943	（要） 観覧料
企画展「ジョン・バチラーとバチラー八重子」 （本館２階特別展示場）	市指定文化財の「バチラー夫妻記念堂」を紹介すると共に「アイヌの父」と称されたジョン・バチラーとその養女：バチラー八重子の２名の功績を中心に展示する。	R05.10.07～ R06.1.14	1,126	（要） 観覧料
企画展「亘理伊達家のお雛様」 （本館２階特別展示場）	ひな祭りに合わせて、亘理伊達家由来のお雛様などを展示する。	R06.03.01～ R06.03.31	1,515	（要） 観覧料
企画展「フランク・シャーマン浮世絵コレクション展示」 （本館１階ラーニング・スタジオ）	コレクションの価値理解及び浮世絵鑑賞の機会を市民に広く提供するためコレクションの浮世絵を展示する。	R05.04.22～ R05.05.28	1,781	無料
企画展「北海道の陶芸」 （本館１階ラーニング・スタジオ）	道内の若手作家や過去に旧大滝村で行われた陶芸作品を展示する他、陶芸関連のワークショップを行う。	R05.10.03～ R05.10.15	1,280	無料
企画展「伊達に息づく藍文化」 （本館１階ラーニング・スタジオ）	伊達高等養護学校の「藍で繋がる伊達愛プロジェクト」取組や市内の藍染作品等を展示紹介する。	R05.06.03～ R05.07.23	1,651	無料
企画展「史跡北黄金貝塚」 （本館１階ラーニング・スタジオ）	冬季休館する史跡北黄金貝塚の代替ガイダンス施設として展示を行う。	R05.12.9～ R06.3.24	2,522	無料
幻灯機映写会・歴史講演会 （本館１階ラーニング・スタジオ）	「ジョン・バチラーとバチラー八重子」展における幻灯機による映写会及び市民向けの歴史講演会。	R05.11.3 R05.11.4	48	無料

事業名　【　　青少年事業　　】－１　　担当課・係　　生涯学習課青少年・スポーツ係

事業名（会場）	事　業　概　要	開催日	参加実績	備　考
第１回だてっ子遊び・学びの教室 (カルチャーセンター)	「お茶」と「お話」を楽しもう 〔協力者・協力団体〕 武者　ますみ　氏 サークル「お話の森」 つどいサークル「ドロップ」	R05.05.13	17	児童;13 保護者等；4
第２回だてっ子遊び・学びの教室 (カルチャーセンター)	「心ときめく小さな音楽会」 〔協力団体〕 つどいサークル「ドロップ」他	R05.06.24	46	児童：22 保護者等：24
第３回だてっ子遊び・学びの教室 (総合体育館)	「みんなで楽しくドッチビー」 〔協力者〕 児玉　栞汰　氏（ドッチビー指導員）	R05.07.29	15	児童：9 保護者等：6
第４回だてっ子遊び・学びの教室 (カルチャーセンター)	「トントンスモウを作ってみんなで遊ぼう！」 〔協力者・協力団体〕 渡辺　元佳　氏 つどいサークル「ドロップ」	R05.08.19	27	児童：16 保護者等：11
第５回だてっ子遊び・学びの教室 (カルチャーセンター)	「ミニフラワーアレンジメント」 〔協力者〕 澤田　知子　氏（青葉）	R05.09.23	78	児童：43 保護者等：35
第６回だてっ子遊び・学びの教室 (カルチャーセンター)	「みんなで楽しくケンダマジック」 〔協力者・協力団体〕 奥出　敦彦　氏 つどいサークル「ドロップ」	R05.11.25	12	児童：11 保護者等：1
第７回だてっ子遊び・学びの教室 (カルチャーセンター)	「クリスマスリースを作ろう！」 〔協力団体〕 つどいサークル「ドロップ」他	R05.12.09	22	
第８回だてっ子遊び・学びの教室 (カルチャーセンター)	「落語鑑賞会」 〔協力者・協力団体〕 久保　拓馬　氏（菓子処　久保） つどいサークル「ドロップ」	R06．1．27	15	児童：9 保護者等：6
第９回だてっ子遊び・学びの教室 (総合体育館)	「スポーツ鬼ごっこ」 〔協力者〕 菅野　啓太　氏	R06．2．17	25	
第10回だてっ子遊び・学びの教室 (カルチャーセンター)	「ヒップホップダンス体験」 〔協力者・協力団体〕 宮坂　啓多　氏 つどいサークル「ドロップ」等	R06．3．09	33	児童：16 保護者等：17

令和５年度　社会教育事業実施報告書　　【資料2】

事業名　【　　青少年事業　　】－２　　担当課・係　　生涯学習課青少年・スポーツ係

事業名（会場）	事　業　概　要	開催日	参加実績	備　考
姉妹・歴史友好都市シニアリーダー研修・交流会（まなびの里サッカー場研修棟、有珠観光館）	姉妹・歴史友好都市である、宮城県亘理町、山元町、柴田町、福島県新地町、伊達市の中高生シニアリーダーが一堂に会し研修・交流する。 〔協力団体〕 伊達シニアクラブスポーツ少年団※ ２年おきに伊達市で開催。 ※R02、R03と２年連続で中止となったことから、伊達市開催年を変更（R06⇒R05）	R05.07.31～ R05.08.02 （２泊３日）	25名 うち伊達市からの参加者　５名	
令和６年「伊達市二十歳(はたち)を祝う会」(カルチャーセンター)	二十歳の誓い、ビデオレター上映を実施 〔協力団体〕 伊達favorite CLUB	R06.01.07	207	
親子体験教室（まなびの里パークゴルフ場）	小中学生とその保護者を対象とした親子参加型の体験事業（パークゴルフ教室）	R05.10.21	６人(２組)	
あそびましておめでとう（カルチャーセンター）	「3A、レクリエーション」 〔協力団体〕 伊達シニアクラブスポーツ少年団 伊達市長生大学	R06.01.13	10	

令和５年度　社会教育事業実施報告書　　【資料2】

事業名　【　　スポーツ事業　　】　　担当課・係　　生涯学習課青少年・スポーツ係

事業名（会場）	事　業　概　要	開催日	参加実績	備　考
春一番伊達ハーフマラソン（メイン会場：だて歴史の杜総合公園）	10km、ハーフ（21.098km）のみ	R05.04.16	2,014	
おおたき国際ノルディックウォーキング（大滝総合運動公園）	３・６・９・12km	R05.07.02	222	
おおたき国際スキーマラソン（大滝総合運動公園）	３・５・７・15km	R06.02.10	289	

事業名　【　　図書館事業　　】　　担当課・係　　図書館

事業名（会場）	事　業　概　要	開催日	参加実績	備　考
春の読書週間 （図書館）	子ども読書週間に合わせて、小学生子ども一日司書体験、子ども向けの本の展示等を実施。 また、２日間限定で２階に「ひみつのへや」を設置し、会場内で読み聞かせや大型絵本の展示など楽しみながら本に触れ合ってもらう。	R05.04.21～ R05.04.30	期間計 1,020	
堀内文庫・伊東文庫巡回事業（市内全小学校等）	堀内氏、伊東氏からの寄贈児童書を各校(７校)に３週間程度巡回	R05.05下旬～ R06.02下旬	―	
みんなのオススメ本 ＰＯＰコンテスト （図書館）	市内小中学生等と市内高校生を対象に、オススメ本のＰＯＰコンテストを行う。 図書に対する興味を誘い、読書への意欲の継続・向上を目的として実施。 受賞者は、秋の読書週間に図書館本館で図書を借りた方による投票で決定。	◎作品募集 R05.06.13～ R05.09.10 ◎投票審査 R05.10.27～ R05.11.05 ◎表彰式 R05.12.09	応募　672 審査対象　491 表彰　15	
七夕飾りづくり （図書館）	高さ４ｍの竹を設置し、子ども達が期間中書いた短冊を飾る。	R05.07.01～ R05.08.06	期間計 220	
秋の読書週間 （図書館）	秋の読書週間に合わせて、大人も楽しむお話会、図書館クイズ、おすすめ本展示、「ひみつのへや」等を実施する。	R05.10.27～ R05.11.05	期間計 1,330	
おはなし会 （図書館）	幼児から小学生向けのおはなし、絵本の読み聞かせ等を実施する。	毎月 第１土曜日	延べ 210	保護者含
絵本の読み聞かせ会 （図書館）	絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊び等を実施する。	毎月 第２・４水曜日	延べ 480	保護者含
子ども映画会 （図書館）	子ども向け映画会の上映を行う。	毎月第３土曜日、 春と秋の読書週間	延べ 90	保護者含
地域文庫配本 （各地域文庫４箇所）	図書館遠隔地にその地域と協働で地域文庫を設置。半年に一度250冊の図書を寄託・巡回し、地域住民への読書サービスの向上に努める。（４地域に開設）	各文庫 年２回入替	―	
ブックスタート （保健センター）	読書啓発と子育て支援のため、乳幼児健康栄養相談（１歳児対象）の際に絵本の読み聞かせ及び絵本の配布を実施する。	隔月１回	受渡 117	
ブックスタート・ステップ （図書館）	読書啓発と子育て支援のため、２歳児を対象に絵本の読み聞かせ及び絵本の配布を実施する。	５日間１クールを年３回実施 （7、11、3月）	受渡 58	
研修生受入事業 （図書館）	図書館業務を体験することで図書館への理解を深めてもらうとともに、研修生の勤労観、職業観の育成等に資する。対象は中学生以上の生徒・学生。	随時	1	

令和６年度　社会教育事業実施計画書　　【資料3】

事業名　【 社会教育委員関係事業 】　　担当課・係　　生涯学習課社会教育係

◆開催予定日：上⇒上旬、中⇒中旬、下⇒下旬、未⇒未定　〔R06.04.未⇒４月開催で未定〕

事業名（会場）	事　業　概　要	開催予定日	定員又は来場見込	備　考
第１回伊達市社会教育委員会議（市役所第２庁舎）	◎令和６年度教育行政執行方針説明 ◎R05年度社会教育事業実施報告 ◎R06年度社会教育事業実施計画	R06.06.未	全社教委と関係職員	
第２回伊達市社会教育委員会議（会場未定）	◎R07年度事業実施計画ほか	R07.02.未	全社教委と関係職員	
北海道社会教育委員連絡協議会通常総会（札幌市：かでる２・７）	◎R05年度事業実施・決算報告 ◎R06年度事業計画・予算報告 ◆小林委員は道社連協の評議員	R06.04.12	小林委員	旅費は胆社連協負担
胆振管内社会教育委員連絡協議会理事会・総会（室蘭市）	◎R05年度事業実施・決算報告 ◎R06年度事業計画・予算報告 ◆規約で委員２名が出席	R06.05.27	小林委員 伊藤(成)委員	【書面会議】
北海道社会教育委員連絡協議会第２回理事会（札幌市：かでる２・７）	小林委員が道社連協の理事であるため出席	R06.06.14	小林委員	
北海道社会教育委員長等研修会（札幌市：かでる２・７）	社会教育委員及び関係職員を対象とした研修会	R06.07.11～ R06.07.12	小林委員	
北海道社会教育研究大会空知大会（網走市） ※北海道社会教育委員連絡協議会第３回理事会	社会教育委員及び関係職員を対象とした研修会	R06.11.01～ R06.11.02	小林委員 委員１名	
胆振管内社会教育委員連絡協議会研修会・永年勤続表彰式（伊達市）	胆振管内の社会教育委員及び社会教育関係職員が対象の研修会。	R06.10.未	全社教委と関係職員	
北海道社会教育委員連絡協議会永年勤続功労者表彰候補者推薦	勤続年数１０年以上の社会教育委員を道社連協に推薦。（該当なし）			
胆振管内社会教育委員連絡協議会永年勤続功労者表彰候補者推薦	勤続年数６年以上の社会教育委員を胆社連協に推薦。（該当なし）			

※会議や研修会に出席した委員には、既定の旅費及び日額報酬が支払われます。
※北海道社会教育委員連絡協議会⇒道社連協、胆振管内社会教育委員連絡協議会⇒胆社連協

令和６年度　社会教育事業実施計画書　　【資料3】

事業名　【　　生涯学習事業　　】－１　　担当課・係　　生涯学習課社会教育係

事業名（会場）	事　業　概　要	開催予定日	定員又は来場見込	備　考
マイプラン・マイスタディ事業	市民団体等が行う社会教育に関する講演会等の講師謝礼金の一部を市が負担する事業。 参加者が主催団体の会員など、一部の市民に限定される事業ではなく、一般にも開放されていることが条件となる。 ◎負担上限額：20,000円（令和２年度より）	通年	〔R06予算額〕 ８件160,000円	
だて市民カレッジ 〔第１講座〕 (カルチャーセンター)	「音楽は人と人とをつなぐ」 講師：Ueru（ウエル） ボーカル　藤河 ちあき 氏 ギタリスト　籠嶋 学 氏	R06.06.08	100	
だて市民カレッジ 〔第２講座〕 (恵庭市)	「バス見学研修！ガーデニングを楽しむために」 ・えこりん村	R06.07.11	29	市バス
だて市民カレッジ 〔第３講座〕 (カルチャーセンター)	「なせど成らぬことばかり、されど楽し我が人生」 講師：(株)中井榮作商店 代表取締役　及川 昌弘　氏	R06.08.24	40	
だて市民カレッジ 〔第４講座〕 (カルチャーセンター)	「世界第３位への道」 講師：ダブルダッチ指導者 川南 光　氏	R06.10.06	100	
だて市民カレッジ 〔第５講座〕 (カルチャーセンター)	「NHKディレクターが“猟師”になるまで」 講師：猟師　黒田 未来雄　氏	R06.11.29	40	
伊達市長生大学 （カルチャーセンター・有珠白鳥館）	◎伊達長生大学(カルチャー)と有珠長生大学(白鳥館)の２ヶ所を開校。 ◎伊達長生大学は、年間21日の学習日で、午前が講義、午後から実技。 ◎有珠長生大学は午前中のみ開校で、講義又は実技を行っている。 ◎学習日以外の活動としては、見学旅行（２回）、運動会、学芸発表会、ボランティア活動等を行っている。 ◎伊達長生大学には任意加入の部活(市管理外)もあり、独自に活動している。	通年	R06.04.30現在 65歳以上人口 12,233人 R06年度在籍数 伊達　146名 有珠　12名 合計　158名	

※市民カレッジについては「伊達まちカードポイント付与対象事業」で、１講座２０ポイントを付与

令和６年度　社会教育事業実施計画書　　【資料3】

事業名　【　　生涯学習事業　　】－２　　担当課・係　　生涯学習課社会教育係

事業名（会場）	事　業　概　要	開催予定日	定員又は来場見込	備　考
女性プラザ祭 （かでる２・７）	札幌市で開催されるイベントに、市民を集い参加する予定。令和６年度事業の詳細については胆振教育局から連絡が来ていない。	（未定）	30	市バス
胆振女性リーダー養成研修 （埼玉県比企郡嵐山町）	男女共同参画推進フォーラムに市民２名を派遣する。 ※胆振管内教育委員会連絡協議会主催事業	R06.11.30	市民 2名 職員 1名	
男女共同参画パネル展 (カルチャーセンター)	カルチャーセンターロビーにて開催 ※パネルは北海道立女性プラザより借用。	（未定）	―	
男女共同参画社会づくり推進事業〔講演会〕 (カルチャーセンター)	男女共同参画社会づくり啓発のための講演会。	R06.12.15	100	
放課後児童健全育成事業 (放課後児童クラブ)	市内全小学校の児童を対象に開設。 ◆保護者が就労等によって昼間家庭にいない児童を対象に受け入れ ◆保育時間は、下校時刻から最大午後６時半まで ◆休日保育は、さくら・あやめ児童クラブで実施 ◆各児童クラブには、会計年度任用職員２名以上を配置 ◆保育料は月額６，０００円 ※軽減あり ◆補食（おやつ）あり ◆令和６年度各クラブ定員 ◎伊達小 うめのこ児童クラブ　40名 さくら児童クラブ　40名 あやめ児童クラブ　40名 ◎東小 第１やまびこ児童クラブ　35名 第２やまびこ児童クラブ　35名 第３やまびこ児童クラブ　40名 ◎伊達西小・関内小・有珠小 ほしのこ児童クラブ　40名 かぜのこ児童クラブ　40名 きたのこ児童クラブ　40名 ◎大滝徳舜瞥学校前期課程 おおたき児童クラブ　15名 合計　365名 ※ながわ児童クラブ（長和小）は、学校統廃合により、R06よりほしのこ児童クラブへ統合	通年	R06.04末現在 全児童数 1,209名 ※全寮制で児童クラブがない星の丘小学校を除く。 令和６年度当初登録数 380名 ※期間通所児童（長期休みのみ通所）を含む。	
宅配講座事業	市職員が講師となり行う座学講座 ◎全58ジャンル ◎参加者が５名以上であれば、自治会や各種サークル等で申込可 ◎会場費等は申請者が負担	通年	―	

令和６年度　社会教育事業実施計画書　　【資料3】

事業名　【　　文化芸術事業　　】　　担当課・係　　生涯学習課社会教育係

事業名（会場）	事　業　概　要	開催予定日	定員又は来場見込	備　考
市民総合文化祭2024 (カルチャーセンター)	伊達市文化協会加盟団体ほか長生大学等の非加盟団体が参加する文化祭。（参加見込37団体）	R06.10.11～ R06.11.24	3,000	
文化・芸術鑑賞講座 （札幌市）	旧市民講座で取り組んでいた舞台芸術鑑賞講座。クラシック音楽やミュージカル等の舞台芸術を学ぶ。 ・座学１回（カルチャーセンター） ・舞台鑑賞１回（未定）	〔事前学習〕 R06.10.未 〔舞台鑑賞〕 R06.10.20	30	市バス
西いぶり定住自立圏文化事業「春風亭小朝 落語独演会」（登別市）	◎西胆振６市町（室蘭市、登別市、伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町）で実行委員会を組織し開催している文化公演事業。 ◎３市からの負担金各100万円と売券収入により開催経費を賄っている。	R06.09.09	673席	
巡回小劇場事業 〔小学校低学年公演〕 (カルチャーセンター)	市内の小中学生（大滝徳舜瞥学校を含む）対象の舞台芸術鑑賞事業 ◆劇団民話芸術座 〔児童劇〕河童の笛	R06.07.17	635	
巡回小劇場事業 〔小学校高学年公演〕 (カルチャーセンター)	◆ＭＪＰグループ 〔音楽〕カンタービレ	R06.07.04	698	
巡回小劇場事業 〔中学校公演〕 (カルチャーセンター)	◆percussion performance players 〔音楽〕ＰＰＰの楽しい芸術鑑賞会	R06.09.10	775	
市民サークルまつり (カルチャーセンター)	市内文化系サークルによるイベント（文化協会非加盟の16団体）	R06.09.06～ R06.09.08	(来場見込) 500	
現代写実絵画研究所 絵画教室「野田・永山塾」画家育成コース・大人の写実絵画コース (噴火湾文化研究所)	顧問の野田弘志氏と画家の永山優子氏による、小学生から一般（大人）を対象とした絵画教室。	通年	画家育成コース 若干名 大人の写実絵画コース 若干名	
現代写実絵画研究所 リアリズム絵画セミナー (噴火湾文化研究所)	リアリズム絵画を志す人を対象としたセミナーで、顧問の野田弘志氏、画家の永山優子氏、外部講師が指導。	通年	15	
北海道ジュニア美術セミナー（防災センター）	小学校４年生から高校生を対象とした絵画教室。初心者には絵画に興味を持ってもらう、中級者にはレベル向上を目的に２日間の開催。	R06.07.13～ R06.07.14	10	
教育関係合同表彰式 (カルチャーセンター)	芸術文化表彰、青少年表彰、市民スポーツ賞表彰、市民体力づくり運動功績者行賞の合同表彰式	R07.02.下	―	

※文化・芸術鑑賞講座については「伊達まちカードポイント付与対象事業」で、１講座２０ポイントを付与

令和６年度　社会教育事業実施計画書　　【資料3】

事業名　【　　歴史事業　　】　　担当課・係　　生涯学習課文化財係

事業名（会場）	事　業　概　要	開催予定日	定員又は来場見込	備　考
出土品分類体験ワークショップ (会場未定)	小中学生を対象とした縄文文化の体験学習イベント	R06.11.未	40	
だて噴火湾縄文まつり (史跡北黄金貝塚公園、カルチャーセンター)	縄文文化を学び、親しむためにシンポジウムと体験学習イベント	R06.10.未	1,000	
動物考古学セミナー （会場未定）	動物標本や貝塚から出土した魚や動物の骨を用いた講座・ワークショップ	R07.02.未	100	
文化財防火デー (善光寺・三戸部家住宅)	重要文化財を火災から守るための消防訓練	R06.11.未	20	
出張展示講座 （会場未定）	市内の文化財を紹介する巡回パネル展示	R6.8.未	100	
歴史文化講座 (だて歴史文化ミュージアム・迎賓館等)	縄文・アイヌ・武家文化が融合した伊達市の歴史を解説する講座	R06.04～11 ※8月除く月1回	200	
復元貝塚再生プロジェクト (史跡北黄金貝塚公園)	史跡公園の復元貝塚の貝殻を更新するため、市民から貝殻を持ち寄ってもらう史跡づくり参加型事業	R06.04～11	―	

令和６年度　社会教育事業実施計画書　　【資料3】

事業名　【　ミュージアム事業　】　　担当課・係　生涯学習課文化財係

事業名（会場）	事　業　概　要	開催予定日	定員又は来場見込	備　考
常設拡大展「端午の節句甲冑展」 （本館２階特別展示場）	端午の節句において甲冑を飾る風習を紹介するとともに武士が甲冑や武具を飾っていた風習にならい、ミュージアム所蔵の甲冑と刀剣を展示する。	R06.04.20～ R06.06.23	1,500	（要） 観覧料
企画展「伊達政宗文書をよむ～北に渡った独眼竜の文書～」 （本館２階特別展示場）	伊達市教育委員会が所蔵する伊達政宗文書を公開するとともに、古文書の持つ魅力について紹介する	R06.07.06～ R06.09.23	1,500	（要） 観覧料
企画展「洛中洛外図屏風」 （本館２階特別展示場）	令和２年度展示において好評だった「洛中洛外図屏風亘理伊達本」のリバイバル展示を行う。	R06.10.05～ R06.1.13	1,500	（要） 観覧料
企画展「亘理伊達家のお雛様」 （本館２階特別展示場）	ひな祭りに合わせて、亘理伊達家由来のお雛様などを展示する。	R07.01.27～ R07.03.31	1,500	（要） 観覧料
企画展「北海道の工芸」 （本館１階ラーニング・スタジオ）	道内の若手作家や過去に旧大滝村で行われた陶芸作品及び木工作品を展示する他、陶芸関連のワークショップを行う。	R06.10.01～ R06.10.14	1,000	無料
企画展「史跡北黄金貝塚展」 （本館１階ラーニング・スタジオ）	冬季閉館する史跡北黄金貝塚の代替ガイダンス施設として展示を行う。	R06.12.10～ R07.3.23	1,000	無料
古文書教室 （本館１階ライブラリーコモンズ）	北海道立文書館共催として、文書館専門員と市教委学芸員が教室・講座を行う。	R06.08.24	20	無料

令和６年度　社会教育事業実施計画書　　【資料3】

事業名　【　　青少年事業　　】－１　　担当課・係　　生涯学習課青少年･スポーツ係

事業名（会場）	事　業　概　要	開催予定日	定員又は来場見込	備　考
第１回だてっ子遊び・学びの教室 (カルチャーセンター)	「お茶」と「お話」を楽しもう 〔協力者・協力団体〕 武者　ますみ　氏 サークル「お話の森」 つどいサークル「ドロップ」	R6.05.25	25	
第２回だてっ子遊び・学びの教室 (総合体育館)	「ヒップホップダンス体験」 〔協力者〕 宮坂　啓多　氏	R6.07.13	30	
第３回だてっ子遊び・学びの教室 (カルチャーセンター)	「心ときめく小さな音楽会」 〔協力団体〕 つどいサークル「ドロップ」ほか	R6.08.31	30	
第４回だてっ子遊び・学びの教室 (カルチャーセンター)	「渡辺元佳氏ワークショップ」 〔協力者〕 渡辺　元佳　氏	R6.09.14	30	
第５回だてっ子遊び・学びの教室 (カルチャーセンター)	「ミニフラワーアレンジメント」 〔協力者〕 澤田　知子　氏（青葉）	R6.10.05	30	
第６回だてっ子遊び・学びの教室 (総合体育館)	「スポーツ鬼ごっこ」 〔協力者〕 菅野　啓多　氏	R6.11.23	30	
第７回だてっ子遊び・学びの教室 (カルチャーセンター)	「クリスマスをモチーフにした工作」 〔協力団体〕 つどいサークル「ドロップ」他	R6.12.14	30	
第８回だてっ子遊び・学びの教室 (カルチャーセンター)	「動物考古学ワークショップ」 〔協力団体〕 文化財係	R7.01.未	30	

令和６年度　社会教育事業実施計画書　　【資料3】

事業名　【　　青少年事業　　】－２　　担当課・係　　生涯学習課青少年・スポーツ係

事業名（会場）	事　業　概　要	開催予定日	定員又は来場見込	備　考
令和７年「伊達市二十歳(はたち)を祝う会」(カルチャーセンター)	二十歳の誓い、ビデオレター等を予定 〔協力団体〕 伊達favorite CLUB	R7.01.12	200	
親子体験教室 （まなびの里パークゴルフ場）	小中学生とその保護者を対象とした親子参加型の体験事業 （パークゴルフ教室）	R6.08.17	30人(15組)	
あそびましておめでとう （カルチャーセンター）	「むかし遊び」 〔協力団体〕 文化財係	R7.01.未	30	

令和６年度　社会教育事業実施計画書　　【資料3】

事業名　【　　スポーツ事業　　】　　担当課・係　　生涯学習課青少年・スポーツ係

事業名（会場）	事　業　概　要	開催予定日	定員又は来場見込	備　考
春一番伊達ハーフマラソン（メイン会場：だて歴史の杜総合公園）	３㎞、10㎞、ハーフ（21.098㎞）のみ	R6.04.21	2,459	
おおたき国際ノルディックウォーキング（大滝総合運動公園）	３・６・９・12㎞	R6.07.07	（定員無し）	
おおたき国際スキーマラソン（大滝総合運動公園）	未定	R7.02.未	未定	

令和６年度　社会教育事業実施計画書　　【資料3】

事業名　【　　図書館事業　　】　　担当課・係　　図書館

事業名（会場）	事　業　概　要	開催予定日	定員又は来場見込	備　考
春の読書週間 （図書館）	子ども読書週間に合わせて、小学生子ども一日司書体験、子ども向けの本の展示等を実施。 また、後半は２階に「ひみつのへや」を設置し、会場内で読み聞かせや大型絵本の展示など楽しみながら本に触れ合ってもらう。	R06.04.19～ R06.05.05	期間計 1,300	
堀内文庫・伊東文庫巡回事業（市内全小学校等）	堀内氏、伊東氏からの寄贈児童書を各校(６校)に３週間程度巡回	R06.06上旬～ R07.02下旬	―	
あなたの推し本 ＰＯＰコンテスト2024 （図書館）	市内在住在学の小中高生を対象に、図書館所蔵の本のＰＯＰコンテスト（5部門（小学低・小学中・小学高・中学・高校））を行う。 図書に対する興味を誘い、読書への意欲の継続・向上を目的として実施。 受賞者は、秋の読書週間に図書館本館で図書を借りた方による投票で決定。	◎作品募集 R06.06.25～ R06.08.31 ◎投票審査 R06.10.25～ R06.11.03 ◎表彰式 R06.11.30	―	
七夕飾り （図書館）	期間中に来館者が作成した短冊を笹に飾りつけ展示する。	R06.07.07～ R06.08.07	期間計 200	
秋の読書週間 （図書館）	秋の読書週間に合わせて、大人も楽しむお話会、図書館クイズ、おすすめ本展示、「ひみつのへや」等を実施する。※館内飲食試行予定	R06.10.25～ R06.11.03	期間計 1,500	
おはなし会 （図書館）	幼児から小学生向けのおはなし、絵本の読み聞かせ等を実施する。	毎月 第１土曜日	延べ 300	保護者含
絵本の読み聞かせ会 （図書館）	絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊び等を実施する。	毎月 第２・４水曜日	延べ 500	保護者含
子ども映画会 （図書館）	子ども向け映画会の上映を行う。	毎月第３土曜日、 春と秋の読書週間	延べ 100	保護者含
地域文庫配本 （各地域文庫４箇所）	図書館遠隔地にその地域と協働で地域文庫を設置。半年に一度250冊の図書を寄託・巡回し、地域住民への読書サービスの向上に努める。（４地域に開設）	各文庫 年２回入替	―	
ブックスタート （保健センター）	読書啓発と子育て支援のため、乳幼児健康栄養相談（１歳児対象）の際に絵本の読み聞かせ及び絵本の配布を実施する。	隔月１回	対象 135	
ブックスタート・ステップ （図書館）	読書啓発と子育て支援のため、２歳児を対象に絵本の読み聞かせ及び絵本の配布を実施する。	５日間１クールを年３回実施 （7、11、3月）	対象 140	
研修生受入事業 （図書館）	図書館業務を体験することで図書館への理解を深めてもらうとともに、研修生の勤労観、職業観の育成等に資する。対象は中学生以上の生徒・学生。	随時	―	